

選挙区	3区			
氏名	野本陽一	柿沼トミ子	古沢道雄	
年齢	75		67	65
所属団体	自民党	自民党	プロジェクトせんたく	
現・新	現 10期	現 1期	新	
教育		<p>・児童虐待について          「核家族の割合が高く、子育て家庭が地域で孤立しがちだと言われる埼玉県で、人が親になる、親として自覚を持って子育てしていくことへの支援や、親自身の悩みや育児不安への支援など、親に対する支援を充実させることは、すぐに取り組むべき重要な課題です。地域で子育て家庭を見守るネットワークを作ることで、児童虐待を防げるかもしれません。」※9</p> <p>・私は常日ごろ、國土があつてこそ私たちの日常の暮らしが成り立つと考えております。経済的な理由だけで外国資本に土地を売り渡してしまう現在の状況は、嘆かわしい限りです。森林や水源地、小さな島、どんな場所であれ、國土を売ることは國家を売ることに等しい行為だと思います。</p> <p>現在の厳しい世界状況の中では、自らの原点である日本国に誇りと愛着を持ち、一人一人が自覚を持って行動することが、世界の国々からも信頼を得る道であると思います。</p> <p>そのためには、教育の現場で正しい歴史認識と愛国心を育てることが何より重要であり、このことが國土を守る最後のとりでとして、日本の安全保障の礎になるものと考えます。このような日本人を育てていく愛国心教育が重要であると考えます※49</p>		
災害				
公共事業		・(旧騎西高校の跡地利用について)東京オリンピックに向けた青少年のスポーツ育成施設として活用するなど有効利用を考えるべきだと考えます※50		
福祉 障がい者				
福祉 高齢者				

医療		・県では、救急搬送の改善を図るため、今年4月から全ての救急車にタブレット端末を搭載し、新たな救急医療情報システムを稼働させました。このシステム導入以降も、現場の意見を踏まえながら適宜システムの改良を行っていると聞いております。本県の救急搬送の改善に大きな効果が上がるものと期待しております。システムが稼働して半年が経過しますが、具体的にどのような効果があったのか、また、救急患者のたらい回しといったような不幸な事件を繰り返さないためにも、特に県境地域においては、隣接県との救急医療体制の連携が必要であると考えます。※136		
町おこし		・行政、生産現場、流通業者がタッグを組み、消費者のニーズに合った商品の開発や販売ルートの確立など、買っていただくための商品力向上を目指すべきではないかと思います。 正に農家のためにこそ存在意義のある農協とも連携し、知事が先頭に立って、引き続き地産地消の取組を進めるとともに、海外の方々にも県産農産物の良さをPRし、県産農産物を海外で消費する地産外消の販売網を確保する取組を進めるべきと考えます ※135		
その他				

### 出典

- ※9 埼玉県議会 平成26年12月10日一般質問  
児童虐待について  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/e1601/teireikaigaiyo/h2612-j032.html>
- ※49 埼玉県議会 平成25年9月定例会  
「愛国心」の育成について  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/e1601/gikai-gaiyou-h2509-m040.html>
- ※50 埼玉県議会 平成25年9月定例会  
旧騎西高校の跡地利用について  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/e1601/gikai-gaiyou-h2509-m081.html>
- ※135 埼玉県議会 平成26年12月定例会  
埼玉県産農産物のPRと海外販路拡大の推進について  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/e1601/teireikaigaiyo/h2612situgisitumonn.html#shitumo>
- ※136 埼玉県議会 平成26年12月定例会  
救急医療の充実について  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/e1601/teireikaigaiyo/h2612-j070.html>